

日清戦争の経過概略・関連地図

1894年	
6月	派兵を閣議決定 大本営を設置
7月	日英通商航海条約調印 日本による朝鮮王宮占領事件 豊島沖海戦（日本軍勝利） 成歓・牙山の戦い（日本軍勝利）
8月	日清両国が宣戦布告
1895年	
2月	日本軍、威海衛を陥落
3月	下関講和会議はじまる
4月	日清講和条約調印 三国干涉
5月	遼東半島放棄を閣議決定

日露戦争の経過概略・関連地図

1904年	
1月	韓国政府、日露両国に中立を通告
2月	宣戦布告 清、局外中立を宣言
4月	非常特別税法・煙草専売法公布
8月	第1次日韓協約調印 遼陽会戦（日本軍郵政） 徴兵令改正(後備役5年→10年)
1905年	
1月	ロシア旅順守備軍降伏 ロシア「血の日曜日」
3月	奉天会戦
5月	日本海海戦（日本軍勝利）
6月	ルーズベルト米大統領、講和斡旋
7月	日本軍、樺太攻略 桂・タフト覚書
8月	日露講和会議
9月	日露講和条約調印 日比谷焼打ち事件



(原田敬一「シリーズ日本近現代史③ 日清・日露戦争」、岩波新書、2007年より改変)



←※1

↑※2

用語集（スライド掲載順、※が付随しております）

甲午農民戦争

1894年に発生した李氏朝鮮末期の農民反乱。東学党の乱ともいう。春、全羅道でおこった農民反乱が急速に朝鮮中南部に波及した。全羅道の首府を農民軍が占領したのを機に、朝鮮政府は清に援軍を要請し、日本も清に対抗して出兵した。この危機を前に農民軍は政府と和解し、日清両軍の撤退を図った。しかし、日本はさらに保護国化を目指したため、農民軍は再び蜂起したが、冬には日本・朝鮮政府軍に敗れた。

北清事変

1900年、清国における義和団による排外運動のため、首都北京の外国公使館区域が包囲攻撃されたので、列国は八ヶ国連合軍を組織し、これを救出した事件。義和団事件ともよばれる。ロシアは、義和団の余波が満洲に及ぶと、当時建設中の東清鉄道が義和団に破壊されたので、その保護を名目に満洲を占領し、容易に撤兵せず、日露戦争の原因となった。

日比谷焼打ち事件

日露戦争講和条約（ポーツマス条約）に反対する全国的運動の頂点となった都市民衆暴動。条約締結日に日比谷公園で計画された講和条約反対国民大会が、治安警察法によって禁止されたが強行され、警官隊ともみ合う中で事態は自然発生的に暴動化した。政府系の国民新聞社や内相官邸、警察署や交番、キリスト教会や鉄道まで襲われた。戒厳令宣告により鎮静化した。

統帥権

軍隊を処理し、指揮命令する権限。他の大権とおなじく、憲法上は国务大臣の輔弼責任に属するものであった。しかし、1878（明治11）年の参謀本部条例や「軍人勅諭」によって、成文憲法の明文に反する慣習法として狭義の統帥権独立が成立した。

大本営

陸海軍の最高指揮官である天皇の本営という意味で、戦時または事変（事変を対象としたのは日中戦争時のこと）に際しての最高統帥機関。

軍旗

軍旗は中央に日章があり、これから十六条の光線を放射するものである。軍旗は天皇が親授し、天皇すなわち大元帥を象徴したものとして尊重され、国軍団結の核心とされたものである。したがって軍旗喪失のごときは、連隊長の最大の恥辱とされた。

詔書

天皇の命令下達に用いられる公文書。

侍従

令制以来の天皇側近の官職。明治以降、政府の奏上は侍従を経由することと定めた。内閣制度が発足すると、宮内省を内閣の外に置いて、宮中・府中の別を厳にし、現制が定まった。

侍従武官

天皇に常侍奉仕し、軍事に関する奏上、奉答、命令の伝達などの任にあたる陸海軍人。

【参考文献】

国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』、吉川弘文館、1979－1997年。

【画像引用】（いずれも最終閲覧は2022年11月12日）

※1 日刊ゲンダイ DEGITAL

<https://c799eb2b0cad47596bf7b1e050e83426.cdnnext.stream.ne.jp/img/article/000/281/472/71b37afaa178a4b2c0102cd0ca80c2c920201117132417203.jpg>

※2 国立公文書館アジア歴史資料センター「日露戦争特別展II」ホームページ

https://www.jacar.go.jp/nichiro2/sensoushi/images/sensou_map_img.jpg